

Strix 7 : 285-287 (1988)

## オオルリの建造物への営巣例

沼沢 篤<sup>1</sup>・薄井英司<sup>1</sup>・溝口俊夫<sup>1</sup>

### 1. はじめに

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* は、低山帯及び亜高山帯下部を主な生息場とするヒタキ科の野鳥であり、崖、石崖、土手、樹洞などに営巣し、ときには、家屋の軒端にも営巣する(清棲 1966)。しかし、建造物への営巣に関して、基礎データを示した報告例は見当たらない。

私達は、1988年「福島県民の森」地内(安達太良山系前ヶ岳山麓、海拔約700メートル)のキャンプ場の建造物(屋外トイレ4棟及び森林学習展示館1棟)に合計5巣の造巣を記録したので報告する。なお、本報では、巣が繁殖に使用されなかった場合は、単に「造巣」として「営巣」とは区別した。

### 2. 経過

1987年7月、福島県民の森キャンプ場内第1屋外トイレの配電盤に造巣(繁殖未確認)。

1988年4月29日、オオルリ雄初認。

1988年6月17日、キャンプ場内でオオルリ1番いの鳴き合いを確認。

1988年7月1日、前年と同じ、第1トイレ窓枠に営巣していることを確認。同日、第1卵産卵。

1988年7月4日、第4卵産卵。抱卵開始。

1988年7月17日、4卵ともふ化。育雛開始。

1988年7月29日、巣は空になっていた。巣立ち未確認。この間に、他の4巣を発見したが、いずれも繁殖には使われなかった。

1988年8月9日、オオルリ雄終認。

### 3. 各巣の位置

1988年に造巣された5巣のキャンプ場における位置及び利用された建造物の部位とその方位を図1に示した。造巣された各建造物の相互間の距離はいずれも、100メートル以上であった。利用された部位は、窓枠が3か所と最も多く、他は、配電盤1か所、鉄骨1か所であった。利用された部位の建造物における方位については、特に傾向はなかった。各巣の計測結果は表1に示した。

### 4. 考察

キャンプ場内の建造物という、人間がよく出入りする場所に、営巣または造巣したことは、深山の溪谷の鳥というイメージを破る。この記録は、周辺に適当な崖地などがなかったためにやむを得ず建造物を利用した例外的なものだとしても、今後、人工巣を利用する可能性を示唆している。各巣間の距離は100メートル以上であり、他個体の関与を否定できないが、もし1つがいによってこれらの5巣が造巣されたものならば、相当広いテリトリーを占めたことになる。その場合、1巣のみの営巣であるので他の4巣はダミーであろうか。造巣部位の方位には、特にはっきりした傾向はなかったが、いずれも上部を樹木が覆ったり、ひさしがせりだしたりしている、うす暗い場所であった。このことは、暗い場所では、雄個体背部の青色は、黒に近い暗青色となり、極めて目立たなくなることと関係があらう。

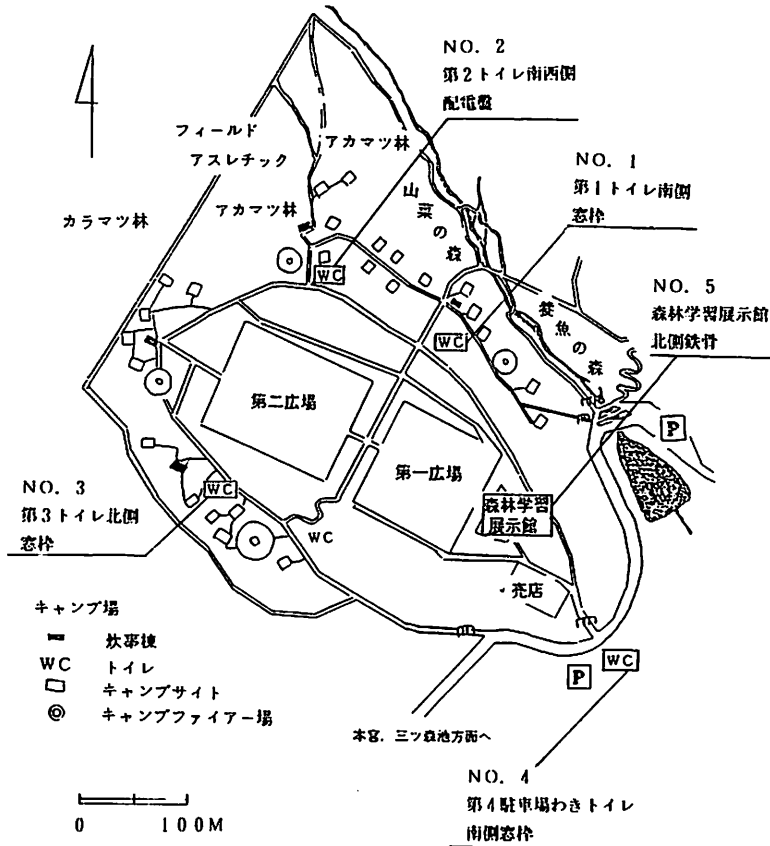


図1. 福島県民の森キャンプ場に造巢したオオルリの各巢の位置, 利用部位及びその方位  
 Fig.1. The location of the nesting sites of *Cyanoptila cyanomelana* at the campground of Fukushima prefectural forest park.

表1. 各巢の計測結果  
 Table.1. Measurement of five nests.

№	場所	繁殖の有無	果材	重量 (g) (採集時)	地上高 (cm)	内径 (短径) (cm)	内径 (長径) (cm)
1	第1トイレ	有	コケ類	48	152	6.4	7.6
2	第2トイレ	無	コケ類	42	182	5.4	6.8
3	第3トイレ	無	コケ類	24	144	5.7	6.2
4	第4駐車場脇トイレ	無	コケ類	36	159	5.8	7.0
5	森林学習展示館	無	コケ類	28	288	巢の体裁をなしていない	
平均 ± 標準誤差				35.6 ±4.4 (n = 5)	185.0 ±26.5 (n = 5)	5.8 ±0.2 (n = 4)	6.9 ±0.3 (n = 4)

引用文献

清根幸保. 1966. 野鳥の事典. 東京堂出版, 東京.

1. 〒969-11 福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳 福島県民の森 森林館

## Nesting record of the Blue-and-white Flycatcher on buildings

Atsushi Numazawa<sup>1</sup>, Eiji Usui<sup>1</sup> and Toshio Mizoguchi<sup>1</sup>

Five nests of Blue-and white flycatchers *Cyanoptila cyanomelana* were recorded on the buildings at the campground of Fukushima prefectural forest park in July 1988. Of these, only one nest was used. The clutch size was four. If all of these nests were made by only one pair, the other four nests should be considered dummies. However, we could not exclude the possibility of the existence of other individuals, for the distance between these nests was over 100 meters. Although this is a rare case probably due to the lack of proper nest sites, it suggests the possibility that this species might use an artificial nest.

1. Fukushima prefectural forest park, Maegatake, Tamanoi, Otama-mura, Adachi-gun, Fukushima, 969 -- 11.

1988年9月26日受理